



決意と決心: この状況からどのように共に脱却するか

[クリスティーヌ・ラガルド](#)

2011年9月27日

先週末、IMFの加盟187カ国が、世界が直面している経済危機について話し合うためにワシントンDCに集結しました。

[2011年IMF・世界銀行年次総会](#)では、加盟国の財務大臣、中央銀行総裁、ビジネス関係者や市民社会、労働組合の代表および政治家といった様々な参加者が、我々が現在直面している重要な問題について協議しました。

年次総会までの間、私は世界経済が直面している [新たな危険な段階](#) について警告し、[大胆かつ一体的な行動](#) を呼び掛けてきました。年次総会が終了した今、国際社会が反応し始めると強く感じます。

なぜか？ それには、三つの理由を挙げることができます。切迫感の共有、諸問題についての共通の分析、そして今後必要な措置が明確化していきっているという意識の共有です。

一番目、切迫感の共有

事態が深刻であるという明確な認識が共有されました。年次総会の中で発表されたIMFの最新の見通しは、今年と来年の世界経済の成長率は4%まで鈍化すると予測しています。先進国の成長率は、わずか1.5~2.0%と考えられます。世界経済の回復が引き続き、極めて脆弱かつ不均一であることは明白です。

加えて、弱い成長、政府、銀行、家計の脆弱なバランスシート、そして必要なことを実行するという政治的なコミットメントの弱さの間の、負のフィードバック・ループによりリスクが蓄積しています。

これが、経済的のみならず社会的なコストをも強いる信認危機を増幅させています。

欧州に立ち込める暗雲が最も暗いかもしれませんが、米国も高い不確実性のなかにあります。事態が一層切迫しているのは、それが各国に影響を及ぼすからです。

相互に結びついた世界では、先進国での出来事は、ケニアの農民、ブラジルのデザイナー、中国の起業家など、全ての人々に影響を及ぼします。

二番目、諸問題についての共通の分析

相互に負の影響を及ぼし合っている、弱い成長と脆弱なバランスシートの中の悪循環を断ち切ることを、第一の優先事項としなければならないことは言うまでもありません。年次総会

このIMFダイレクトは <http://blog-imfdirect.imf.org/2011/09/27/resolve-and-determination-how-we-get-out-of-this-together-2/> で閲覧可能。

IMFダイレクトブログホームページ: <http://blog-imfdirect.imf.org/>

では、先進国、特に欧米が、こうした問題の効果的な解決を図る上で中心的役割を担うという認識が広く共有されました。

米国の主要な課題は、中・長期的に財政赤字を削減するための確かな戦略を導入するとともに、高失業率に早急に対処し、過剰債務にある家計への圧力を緩和することです。

一方、欧州では、国と銀行の債務という相互にリンクした問題に、同時に取り組むことが主な課題です。年次総会に出席した各国代表は、ユーロ圏の国々による、直面している問題の解決に向けて「必要なことは全て行う」という決意にとりわけ勇気付けられました。

先進国がこのような問題に積極的に取り組まねばならない一方、新興市場国および低所得国もそれぞれ果たすべき役割があります。

新興市場国は、世界経済の再調整という究極的な目的を達成するにあたり、対外黒字国はこれまで以上に内需主導とし、経常赤字国は過熱を回避するための対策をとるという、重要な役割を担っています。

低所得国は危機の間に効力を発揮した政策バッファーを立て直すとともに、成長および雇用創出に投資を行なわねばなりません。

三番目、必要な措置が明確になる

先週末、政策立案者は「例外的な警戒と、大胆な行動を協調して行う用意をする」ことを呼び掛けました。これは、以下の分野に該当します。

- 財政政策は、信頼性の喪失と回復力の低下という双子の脅威に対処しなければなりません。先進各国は、財政再建が必要であり、これを最優先課題とすべきですが、一部の国では、あまりにも性急な再建は成長と雇用の足かせとなります。したがって、ペースは過度に遅くても性急すぎてもいけません。また、そのアプローチは、各国の実情に見合ったものでなければなりません。
- 金融政策は、先進国のインフレ期待が総じて十分に安定しているならば、引き続き緩和的であるべきです。また、中央銀行は、必要に応じて大胆な措置を取る用意がなければなりません。
- 金融部門の改革は不可欠です。銀行のバランスシートは、銀行が引き続き貸し付けを行い成長を後押しできるよう、十分に頑健なものでなければなりません。また、金融規制を一段と強化するとともに一貫性を高めることも依然として必要です。
- 競争力と成長を促進する構造改革は、当面の危機を越えた先においても重要です。また、その過程で、社会的側面にも注意を払わなければなりません。我々には、雇用を支える成長、社会全体に利益をもたらす包括的な成長が必要なのです。

そして、年次総会の中でも申しましたように、こうしたすべての課題に通じる決定的な要素は、「実施」以外の何物でもないので。

このIMFダイレクトは <http://blog-imfdirect.imf.org/2011/09/27/resolve-and-determination-how-we-get-out-of-this-together-2/> で閲覧可能。

IMFダイレクトブログホームページ：<http://blog-imfdirect.imf.org/>

IMFからの支援

以上に加え、私は、IMFは加盟国によるこうした取り組みを支援していくことを強調しました。

また、我々の経済分析や政策助言の効果向上、IMFの融資制度や国際金融のセーフティ・ネットの強化、必要とされている技術支援や研修の継続的实施に重点を置いた[行動計画](#)を提案しました。

即時に行動、協調して行動

週末の年次総会を振り返ってみますと、共通の目的意識が芽生えたことは世界経済にとって極めて重要だと私は確信しています。

とは言うものの、全加盟国が目的に向け最後までやり遂げることが、現在では一層重要となっています。そして、これは、数年後に行動するのではなく、数週間後には行動を起こすということを意味するのです。

これらの全ての問題は、例外なく我々全ての問題です。そして我々は共になりはじめて乗り越えることができるのです。

このIMFダイレクトは<http://blog-imfdirect.imf.org/2011/09/27/resolve-and-determination-how-we-get-out-of-this-together-2/>で閲覧可能。

IMFダイレクトブログホームページ：<http://blog-imfdirect.imf.org/>